

## 第5学年国語科学習指導案

### 1 単元名 学習したことを生かして「大造じいさんとガン」

### 2 単元目標

- 大造じいさんの残雪に対する気持ちの変化を読み取り、大造じいさんの狩人としての姿や見方・考え方、そして生き方について考えたり、自分のこれからの生き方について考えたりすることができるようにする。
- 前書きの役割に着目し、文章構成に気を付けながら、呼称の変化を表す言葉や強調表現、文末表現、類義語、指示語を手がかりとして、人物の見方や気持ちの変化を読む読み方を身に付けるとともに、作品の主題を理解することができる。

### 3 単元の授業課題

- 前時や学習計画とのつながりをとらえさせている。(③)
- 子どもが自分の考えをもち、見直し、まとめることができるような読み取りプリントを工夫している。(⑦)
- 挙手だけに頼らずに、意図的、計画的な指名をしている。(⑨)
- めあてからまとめまでの筋道が分かるように板書している。(⑳)

### 4 子どもの実態と授業課題

- 本学級の子どもたちは、これまでに「新しい友達」「わらぐつの中の神様」の学習を通して、読みのめあてに沿って人物の気持ちやものの見方・考え方、生き方を読み取る学習をしてきている。その中で、子どもたちは、考えの根拠となる叙述やキーワードを見つけたり類縁語を読んだりして、登場人物の気持ちの変化を読む力を身に付けてきている。

しかし、読みの能力における個人差が大きく、自分の考えを持たせるための個別指導を必要とする子どもの姿もみられる。

- これまでの授業工夫改善の成果と課題から、本単元では、子どもが自分の力で書き込みをしたり書きまとめたりして考えをもつことができるような読み取りプリントを工夫すること(⑦)、子どもの読みの実態をカルテ化して意図的、計画的な指名をすること(⑨)、の2つを重点的な授業課題としたい。

読み取りプリントへの書き込みが難しい子どもが多い要因の一つとして、書き込みための指示や方法があいまいだった点が考えられる。そこで本単元では、指示が曖昧だった点を改善するために、明確な指示(サイドラインを引くのは言葉か文か、着目する点はどこかなど)を意識して個別指導に取り組んでいく。また、読み取りプリントの内容を改善し、子どもたちの書き込みが充実するための取組を進めていく。具体的には、子ども一人一人が自分の書き込みに自信をもつことができるように、書き込みを通して、子どもが考えの筋道をたどっていけるような学習プリントの構成を工夫する。

話し合いを活発にして読みを深めていくことがなかなかできなかった要因の一つとして、挙手に頼り、反応の早い一部の子どもの発言を中心に展開してきたことが挙げられる。そのため、子どもの学習意欲が低下し、話し合いが停滞してしまう場面もみられた。そこで、子ども一人一人の思考の場を大切にするために、性急に子どもに発言を要求しないことと、小集団での意見交換の時間の確保を心がけて授業に臨みたい。このことを前提に、子ども一人一人の発言の機会を広げ、読みの違いをもとに作品を読み深めていくための意図的、計画的な指名をしていき、話し合いによって読みが深まった、という実感を子どもにもたせていきたい。

### 5 教材の考え方と授業の工夫改善

本教材は、大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化を描いた物語である。文章は、前書きと四つの場面から構成されている。

前書きには、作者が「わたし」として登場し、読み手を物語の世界へ引きつける役割を果たしている。また、その後の四つの場面では、その展開を追う中で、大造じいさんの残雪への気持ちの変化を思い描けるようになっていく。文章表現の特質としては、呼称の変化を表すことばの工夫、強調表現や文末表現の工夫、類義語や指示語の使い分けなどが巧みで、子どもたちにことばの読み方を身に付けさせるのに適した教材といえる。そこで、このような教材の特質を生かしながら、上記の授業課題への取組を中心に、子どもたちの読みの能力を育てていきたい。

6 単元の学習計画（全14時間）

次時	学習活動と内容	指導上の留意点（※工夫改善の項目）	
読み通しのめあて	1 14	<p>題名「大造じいさんとガン」の「と」の働きと語り手が登場する前書きをつないで、読み通しのめあてを生み出す。</p>	
	<p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 題名から内容を予測し、疑問を出し合う。</p> <p>3 前書きを音読する。</p> <p>4 前書きから「大造じいさん」と題名の「と」のつながりを読み、話し合う。</p> <p>5 語り手の登場している意味を考え、読み通しのめあてをつくる。</p> <p>大造じいさんのガンがりの話を土台にしたこの物語で、語り手が伝えたいものは何だろう。</p>	<p>○ 単元名をもとに、物語文の学習を振り返りながら、意識づける。</p> <p>○ 題名の「ガン」は鳥の雁であることを知らせ「と」の働きに着目して予測させる。</p> <p>※ 疑問に思うことを列指名で発表させる(⑨)</p> <p>○ 大造じいさんについて分かる箇所にサイドラインを引かせ、かりゅうどの仕事について補足説明をする。</p> <p>○ 大造じいさんとガンがかりゅうどとえものの関係であることに気付かせる。</p> <p>○ 語り手「わたし」の登場の意味を4年「ごんぎつね」の学習を振り返って考えさせる。</p> <p>○ たくさんのかりの話の中から、語り手がガンがりの話を選んで、「お読み下さい。」と強く勧めている点に疑問を持たせ、読み通しのめあてにつなげる。</p>	
予見	2 3	<p>全文を読み通し、四場面の筋の展開をもとに、語り手が伝えたいものを予見として書きまとめる。</p>	
	4 14	<p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 全文を読む。</p> <p>3 音読の練習をする。</p> <p>4 文章構成と物語のあらすじをとらえる。 ・4つの場面がいつの話か。 ・大造じいさんはどんな方法でガンをとらえようとしたのか。 ・その結果どうなったのか。 ・大造じいさんはどう思ったのか。</p> <p>5 語り手が伝えたいものを予見として書きまとめる。</p>	<p>※ 前時に生み出した読み通しのめあてを掲示しておき、本時のめあてを意識づける。(③)</p> <p>○ 範読をして、音読の仕方や難しい言葉について確かめる。</p> <p>○ 4場面から構成されていることを意識させておく。</p> <p>※ 左の4つの観点を示し、子どもが自分の力で書き込みができるような読み取りプリントを準備する。(⑦)</p> <p>○ 各場面で、大造じいさんがしたこと、作戦の結果、残雪に対する見方が分かるところにサイドラインを引かせる。</p> <p>※ 「語り手が伝えたかったものは・・・」という書き出しを与え、一文で予見を書きまとめる読み取りプリントを工夫する。</p>
	5 14	<p>予見を話し合い、語り手の伝えたいものを読み取るための学習計画を立てる。</p>	
	1	<p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 それぞれが考えた予見を話し合う。</p> <p>3 大造じいさんの気持ちと残雪への見方のちがいを生かして学級の予見を方向付ける。</p>	<p>※ 予見がどんな傾向かを事前にカルテ化し、組み立てた展開をもとに話し合いを進める。(⑨)</p> <p>○ 予見のとらえ方の違いをグループ化し、個人差(読みの深淺)を把握しておく。</p> <p>※ 違いに気付き、どこを根拠に考えているかが分かるように指名して進め、板書で整理する。(⑨, ⑳)</p> <p>○ 大造じいさんの行動を軸としたあらす</p>
	2		
学習計画			

		<p>4 各場面の中心文を見つけ、学習計画を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>予想される予見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大造じいさんとガンの息づまる戦いの様子</li> <li>・大造じいさんのガン（残雪）への思いの変化</li> <li>・大造じいさんとガン（残雪）の友情</li> </ul> </div>	<p>じをもとに、気持ちや見方の変化に伝えたいものがあることを理解させる。</p> <p>○ 場面1の「いまいまして」から各場面の最後で、大造じいさんの気持ちと見方がどうかわっているかに着目して中心文を決め、変化の読み方を理解させる。</p>
読み 確 か め ①	6 / 14	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「ううむ。」と感嘆の声をもらした大造じいさんの気持ちと残雪への見方の変化を読み確かめる。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本時のめあてを確かめる。</li> <li>2 いまいまして思う気持ちと残雪への見方を読み取る。</li> <li>3 場面1のガンをとる方法、その結果に注意して音読する。</li> <li>4 「ううむ。」の中心文に書き込みをする。</li> <li>5 書き込みをもとに話し合う。</li> <li>6 大造じいさんの気持ちと残雪への見方の変化を書きまとめる。</li> </ol>	<p>※ 学習計画表をもとにめあてを確かめる。(③)</p> <p>○ 「一羽のガンも手に入れることができなくなった」いまいましてを大造じいさんのかりゅうどとしての生活から考えさせる。</p> <p>○ 中心文にいたる筋の展開をとらえさせる。</p> <p>○ 「ううむ。」と言った理由、感たんの内容を文脈から考えさせる。</p> <p>※ つりばりの糸の様子、感たんの声の内容を読み取り、今年まだ姿を見ていない残雪の見方が「たかが鳥」から「たいしたちえを」に変わっていることを確かめさせる。(⑦)</p>
読み 確 か め ②	7 / 14	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「ううん。」とうなってしまった大造じいさんの気持ちと残雪への見方の変化を読み確かめる。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本時のめあてを確かめる。</li> <li>2 場面を2のガンをとる方法、残雪の様子、結果に注意して音読する。</li> <li>3 「ううん。」の中心文に書き込みをする。</li> <li>4 書き込みをもとに話し合う。</li> <li>5 大造じいさんの気持ちと残雪への見方の変化を書きまとめる。</li> </ol>	<p>※ 前時とのつながりを意識づける。(③)</p> <p>○ 場面1とのちがいを意識しながら読ませ、中心文にいたる筋の展開をとらえさせる。</p> <p>○ 場面1の「ううむ。」と比べ、その理由と大造じいさんの思いを文脈から考えさせる。</p> <p>○ 夏のうちから準備するほどの執念が実らなかったことから、大造じいさんの気持ちに余裕がなくなり、追いつめられていることを読み取らせる。</p> <p>※ 「ううん。」の後の大造じいさんの気持ちを想像させて板書に整理し、残雪への見方をどんな言葉で表現すればよいか考えさせる。</p>
読み 確 か め ③	8 / 14	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「ただの鳥に対してのような気がしない」大造じいさんの気持ちと残雪への見方の変化を読み確かめる。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本時のめあてを確かめる。</li> <li>2 場面3のガンをとる方法、残雪の様子、結果に注意して音読する。</li> <li>3 「強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしませんでした。」の中心文に書き込みをする。</li> </ol>	<p>※ 前時とのつながりを意識づける(③)</p> <p>○ 場面1, 2のちがいに気をつけながら、中心文にいたる筋の展開をとらえさせる。</p> <p>※ 何に心を打たれたのか、ただの鳥に対してのような気がしないとはどういうことかを文脈から考え、書き込みをさせる。(⑦)</p>

<p>9 / 14 話し合い</p>	<p>4 書き込みをもとに話し合う。 ・戦いを前にした大造じいさんの意気込み ・強く心を打たれた残雪の様子 ・ただの鳥に対してしているような気がしないという見方</p> <p>5 中心文をもとに話し合う。</p> <p>6 大造じいさんの気持ちと残雪への見方の変化を書きまとめる。</p>	<p>※ 書き込みを事前にカルテ化し、指名計画と展開を準備しておく。(⑨)</p> <p>○ おとりを使うことの意味を考えて、「今日こそ」と意気込む執念の高まりを読み取らせる。</p> <p>○ 残雪の頭領らしい堂々とした態度を、場面1・2の見方と比べさせる。</p> <p>○ 鳥をこえたものとして、残雪を初めて見ている大造じいさんの変化を読み取らせる。</p> <p>※ 残雪に対する見方の変化が分かるように板書し書きまとめやすくする。</p>
<p>読み確め 10 / 14 書き込み ④</p>	<p>「いつまでもいつまでも」残雪を見守る大造じいさんの気持ちと見方の変化を読み確かめる。</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 会話文から大造じいさんの残雪への見方がどのように変わったかを考え、書き込む。</p> <p>3 「いつまでもいつまでも見守って」いる大造じいさんの残雪への思いを考え、書き込みをする。</p> <p>4 題名「大造じいさんとガン」で語り手の伝えたかったものを考え、書き込みをする。</p>	<p>※ 本時を場面1, 2, 3とのつながりで意識づける。(③)</p> <p>○ 「ガンの英ゆう」「えらぶつ」と呼ぶにいたった大造じいさんの見方の変化を考えさせる。</p> <p>※ 各場面での大造じいさんの思いが分かる叙述をたどり結んで書き込みができるような読み取りプリントを工夫する。(⑦)</p>
<p>11 / 14 話し合い 本時</p>	<p>5 会話文から大造じいさんの残雪への見方とその変化について話し合う。</p> <p>6 残雪をいつまでも見守る大造じいさんの思いについて話し合う。</p> <p>7 題名と前書きに戻って、語り手の伝えたかったものを話し合い、予見を見直す。</p>	<p>※ 書き込みをもとに、子どもの読みをカルテ化し計画的・意図的な指名をしながら話し合いを進めていく。(⑨)</p> <p>○ 「いつまでも」の繰り返しから長い時間の経過を想像させ、「見守る」を類義語と比べて考えさせる。</p> <p>○ 大造じいさんが残雪ではなく「ガンによびかけました」と語り手が書いている点に着目し、かりゅうどである限り、ガンとの戦いが続いていく大造じいさんの生き方に気付かせる。(⑩)</p>
<p>読みのまとめ 12 / 14 読み方のまとめ</p>	<p>1 読み方のまとめをする。 ・前書きの役割に着目して読む ・呼称の変化を読む ・類義語を読む ・指示語を読む 他</p> <p>2 読み深め・確かめてきたことを振り返り、読みのまとめをする。</p> <p>3 人間と動物の関わりを描いた椋鳩十の作品を読む。</p>	<p>○ 学習の足跡を残した掲示物を使いながら、ことばや文章の読み方を振り返り、「読み方のたから」とつないで、今後の読みの学習の中で使うことができるようにする。</p> <p>○ これまでの学習プリントをもとに学習を振り返り、大造じいさんのものの見方・考え方についての自分の感想を書きまとめる。</p> <p>○ 作品の一部を読み聞かせたり、作品紹介をしたりして、読書への意欲を高める。</p>

7 本時（11 / 16）読み確かめ④

8 本時の目標

- ガンによびかけ、「いつまでも、いつまでも、見守って」いる大造じいさんの気持ちと残雪への見方の変化を読み確かめ、かりゅうどとしての生き方を伝えようとする語り手の思いをとらえることができる。
- 残雪に対する大造じいさんの言動や呼称の変化に着目し、4つの場面を通じて文脈をたどり結びながら作品の中心的な内容をつかむ読み方を理解することができる。

9 本時の授業課題

- 挙手だけに頼らずに、意図的、計画的に指名をしている。(⑨)
- めあてからまとめまでの筋道がわかるように板書をしている。(⑳)

10 本時の授業の工夫改善の考え方

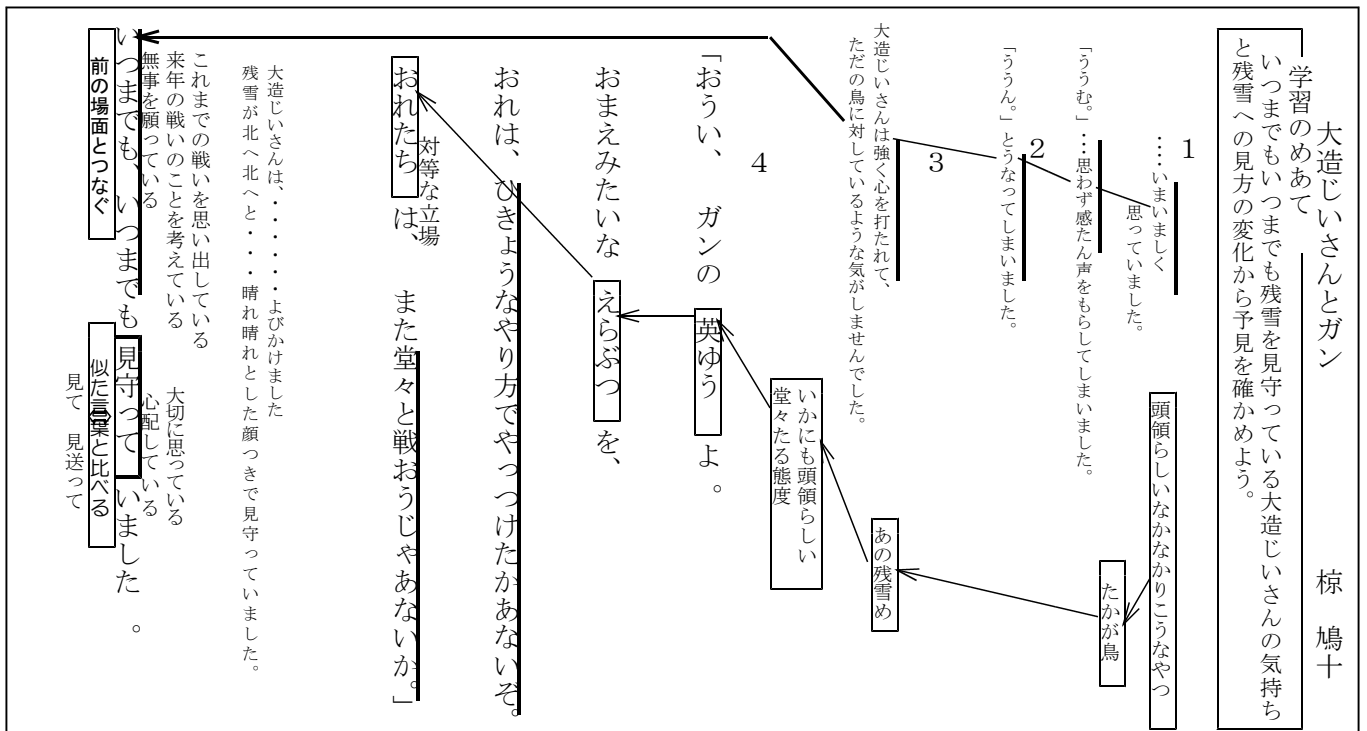
- 前時までに子ども達は、場面4の大造じいさんの言動とそれまでの文脈から、残雪に対する見方や大造じいさんの気持ちを考えて書き込みをしている。本時はその書き込みをもとに話し合い、大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化、かりゅうどとしての大造じいさんの誇りや生き方に語り手の伝えたい感動があることを読み取り、予見を確かめる学習である。
- 本時の授業では、まず、ガンに呼びかける大造じいさんの会話文を手がかりに大造じいさんの残雪への見方の変化について話し合う。残雪に対する呼称の変化をもとに考えさせていきたい。同時に残雪に最大級の賛辞を送りながらも、「おれたち」と自分と残雪を対等な立場でとらえているところから、大造じいさんのかりゅうどとしての誇りや生き方についても考えさせていくようにする。

次に、結びの文から大造じいさんの残雪への思いを読み取る。ここでは、「いつまでも」が二度くり返されている意味を考えさせ、経過した時間の長さや、残雪の姿が見えなくなってもなお大造じいさんが残雪を「見守って」いるのはなぜなのかを話し合う。

その際に、個人作業の時間を取り、それぞれが自分の考えをプリントに書き込み、それをグループで話し合うようにする。その後、集団での思考へと活動を変化させていく。机間指導での見取りをもとに、子どもたちの様々な考えを許容しながらも、適宜、意図的な指名を織り交ぜて読みを深めさせていきたい。

最後に、こうした話し合いをもとに、人物の変容や語り手の伝えたいもの確かめるには何を読めば分かるかを読み方としてまとめ、予見の見直しを通して考えたことを自分の言葉で書きまとめさせる。

11 板書計画



## 12 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点（※工夫改善の項目）○ 準
<p>1 本時学習のめあてを確かめ、本時場面を音読する。</p> <p>1 前時学習を想 する。</p> <p>2 めあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学習のめあて</p> <p>いつまでもいつまでも残雪を見守っている大造じいさんの気持ちと残雪への見方の変化から予見を読み確かめよう。</p> </div> <p>3 本時場面 4 を音読する。</p> <p>2 残雪を見守っている大造じいさんの思いを読み取る。</p> <p>1 表 の考えを聞く。</p> <p>2 大造じいさんの会話文から残雪への見方の変化を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ガン英ゆうよ」「えらぶつ」「おれたち」について考える。</li> </ul> <p>3 「見守って」で何を思っているのか想像し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ の った残雪が 通に べるのか</li> <li>・ひと を人間のもとですごした残雪が れにまた れるか</li> </ul> <p>3 学習のまとめをする。</p> <p>1 題名と前書きにもどって語り手が伝えたかったことを話し合い、予見を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いつまでも見送る」 いの友情</li> <li>・「小 に入れ がす」 高め合う 手</li> </ul> <p>2 見直しをもとに自分の考えを書きまとめる。</p>	<p>○ 学習計画表や掲示している学習の足跡などを使い、子どもたちのめあて意識を高める。</p> <p>○ 自分の書き込みを見直させ、話し合いの構えをもたせる。</p> <p>※ 全 の書き込みに目を通し、読みの傾向を分類して指名計画を立てておく。(9)</p> <p>○ 前時の自分の書き込みをどこで発表するか意識させ、音読で確かめさせる。</p> <p>○ 1, 2, 3の場面で読み取った呼称の変化に着目させ、特に3の最後の「いかにも頭領らしい」という見方がさらに「英ゆう」にまで高まっていることを読み取らせる。</p> <p>※ 大造じいさんの残雪への見方が、場面ごとによって変わってきていることが分かるように板書する。(24)</p> <p>○ 残雪を に するように呼ぶ一方で「おれたち」と 間のように言う言葉から、大造じいさんの自分への見方も誇り高いことに気付かせる。</p> <p>○ 「いつまでも」のくり返しから、どれくらい長時間かを前時におさえた上で、大造じいさんの気持ちを想像させる。</p> <p>○ 「見守る」を「見る」や「見つめる」などの た言葉と比べさせ、大造じいさんの思いを想像させる。</p> <p>○ プリントへの書き込みの時間や小集団での交 の時間を十分に確保することで、一人一人が自分の考えをもてるようにする。</p> <p>※ 机間指導での見取りなどをもとに、意図的・計画的な指名で、子どもの読みを深めることができているか。(9)</p> <p>○ 会話文の後で 1 所だけ「ガンによびかけました」と書かれていることや、おとりのガンは「小 」に入れたのに残雪は「おり」に入れていたことを紹介し、その意図について考えさせる。</p> <p>○ 個人で思考し書き込む場面を したり、書き込ませる前に名の考えを発表させて考えさせるなど、すべての子どもが自分の考えをもてるように配 する。</p> <p>※ 大造じいさんの残雪への見方や 者の関係の変化に語り手の感動があることが分かるように板書する。(24)</p> <p>○ 話し合いをもとに予見を見直し、新しい自分の考えを書きまとめている。</p>